

# 動労千葉への共鳴、地域の労働者にひろがる

# 日刊 動労千葉

80.2.11  
No.347

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二五八・九（公衆電話）二七二〇七

## 「三里塚を閉ざす市川・船橋・習志野地区共闘会議」 地域労働者交流会（3/31）を立ち上げる！



「三里塚と動労千葉支援の輪を地域に広めよう」という目的で昨年12月、市川市・船橋市・習志野市の3地区合同の「地区共闘会議」が結成されました。「地区共闘会議」は、動労津田沼・幕張青年部をはじめとして国労、全通、電通、自治労、民間、そして中小の未組織労働者が結集するなど全産別的にわたる幅広い共闘、交流の場として着実に前進をとげてきています。結成と同時に船橋、市川駅で宣伝活動を積み重ね、予想をこえる反響をつくりだしています。こうした成果に踏まえ、それを更に大きなうねりにしてゆく為に1月31日、第一回の交流会を開く運びとなり、72名結集し、大成功をおさめました。

### 動労千葉支援・連帯の広がり感激！！

会場の40畳の和室は、仕事を終え、駆けつけた72名の仲間の熱気でムンムンする中、中江昌夫氏を講師にまねき、「80年代をいかに闘うか」という提起をうけ、二時間にわたり熱心な討論を行なってきました。

特に賛同人として地域に根ざした運動を続けておられる団地サービス労組の小田さんと東京湾岸道路建設に反対している井上さんが参加され連帯を表明されました。

小田さんは「情勢は厳しいが、動労千葉のように闘えば展望は開ける。政労協も続く」と熱烈に訴えられ、住民運動をしぶとく闘っている井上さんからも闘いの現情報と「共闘会議」との交流をより深める方向が示され全参加者の万雷の拍手をうけました。

交流会に参加した動労千葉の組合員が一樣に感じたことは、一四〇〇名の団結と闘いが地域の中に大きな共鳴をつくりだしてきていることを知ったことであり、感激と同時に「がんばらねば」という決意を新にしました。

### 労働者解放をめざす新しい運動を！

忙しい中、時間をさいて駆けつけた中江氏は、一時間にわたり「80年代の情勢と闘いの展望」を語られた。

その中で強調されたことは、「今は敵政府・資本家にとって最も厳しい時代である。労働者は、敵の攻撃にたじろぎ身を縮めるのではなく攻撃的に闘いに出てこそ活路は開ける。しかし現情の『運動』は全く危機的状況にある。これを突破

する為、体制変革をめざした新しい運動、闘いが必要だ。三里塚・労農連帯の中にその展望はある。職場、地域に闘う大きなうねりを創造しよう」と、自らの豊富な体験をもとに闘いの指針が鮮明に示され、全参加者も己れの課題をしっかりと自覚していきました。

### 「本部」革マル反動分子の三里塚 ・動労千葉破壊行為に怒り集中！

動労千葉参加者からは、79年の教訓と革マル反動分子弾劾の発言がなされ、全員怒りをこめ確認しました。

革マルは、反対同盟幹部に深夜にわたってまでみさかいなく「戸村が死んでおめでとう、次はおまえだ」などと断じて許せない脅迫電話をかけるなど増々三里塚や闘う人民に敵対を深めています。地域で苦闘している仲間たちも彼らを許さず、いっそう三里塚・動労千葉との団結を固めることが約束されました。

交流会は、時間ぎれを惜しみつつ当面3・30三里塚現地集会までの2ヶ月を職場、地域から総決起してゆくことを誓いあい散会しました。

私たちは、戦争と反動、合理化攻撃をうち破っていくために、職場を基礎に、闘う地域、地区の仲間との連帯をいっそう強化してゆかなければならないといえます。

市川・船橋・習志野の地区「共闘会議」「地域交流会」の成功の教訓を全体化し、全支部からの積極的なとりくみをもって「反戦・反合・三里塚・春闘」等、千葉県下にくまなく共闘の輪をおし広げていこうではありませんか。